



じゅんちゃんのことっていい話...

障害者政策は、大きな転換期を迎えつつあります。まだまだ課題は山積ですが、私にとっても大事なテーマです。最近のホットな話題をお伝えします。

十一月中旬に北浦和駅そばに開店したパン屋さん「スワンベーカーリー」のオープニングに出席しました。選挙区内でもないパン屋さんの開店に招かれたのはわけが…。スワンベーカーリーは、ヤマト運輸の故・小倉昌男社長が現役引退後に始めたもので、障害者の自立と社会参加を目指すものです。北浦和店でも四人の知的障害者と一人の精神障害者の方が働くことになりました。福祉を売り物にせず経営努力で、障害者が自活できる給料を払うことが目標です。実は、五年前の県議会一般質問で私は、このスワンベーカーリーの取り組みを紹介しつつ、保護から自立と社会参加へと障害者政策を



障害者の自立と社会参加に向けて

5年越しの「答弁」…スワンベーカーリー北浦和店の出発を祝う

転換すべきと訴えました。そして、その時、県庁で障害者福祉課長だったのが、今回北浦和スワンベーカーリー店を立ち上げたオーナー氏なのです。一氏が三年前に県庁を早期退職されたとは聞いていましたが、まさかスワンベーカーリーをやられるとは思ってもみませんでした。そして、五年前の私の質問を覚えていてくれて、オープニングに呼んでくださいました。私の勝手な思い込みかもしれませんが、一氏が五年の歳月をかけて、私の質問に改めて答弁をしてくれたように思いました。ですから、ともうれしく、議員冥利につぎる出来事でした。成功を祈らずにはいられません。

施設の安定経営に補助 九月議会で県が独自案

九月県議会において、障害者施設の安定経営を助ける補正予算が可決されました。

今年から施行された障害者自立支援法では、介護保険と同様、利用者への一割負担が盛込まれました。しかし、「サービスの利用控え」が発生して、施設収入が減り、正規職員が減ってしまいかねないという切実な実態が問題視されていました。

今回、県が導入するのは、障害者施設が職場開拓や企業実習を担当する職員を設置した場合、人件費を県と市が補助するもので職員の確保にも一定の効果が期待できます。

私も、自立支援法を補助地方レベルの対策を所沢市障害者団体協議会の皆さんと共に二度にわた

り県に訴えてきました。今回の補正予算は、こうした声に応えたものです。

また、強く求められている利用者負担の軽減について県福祉部長は「真に必要な人への支援の手が届くよう検討する」と答弁。新年度予算に対策が盛込まれることが確実視されています。

障害者の雇用促進に向けて県がセンターをつくります

西田矩子議員（公明）の質問で明らかにしました。知事は、障害者雇用について現在の福祉部と産業労働部の連携が不十分だとした上で、「今年四月からこれをワンセットにしたような形で取り組みができないか検討させている。センター的なものを作り徹底的に障害者雇用をサポートする。全力で取り組む」と答弁しました。

上田知事は九月議会で、障害者雇用の促進のため「障害者雇用センター（仮称）」を設立することを



上田知事